

## 2014年度第6回執行理事会議事録

期 日：2014年11月8日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：山本副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 緒方 杉田 平田 廣木 星 松田 山路（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：井龍会長 ウォリス 海野 坂口 竹内（齋藤） 中澤（齋藤） 保柳

\*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者10名，委任状 7名，合計17名の出席。

\*前回議事録の承認

### I 審議事項

#### 1. 県の石事業について（齋藤）

選定委員会を発足させる（委員長：川端清司，アドバイザー：石渡 明・永広昌之）。

支部長への委員参加要請，関係専門部会への委員推薦を依頼した。選定要領を一部修正の上，齋藤常務が関係者に送付する。

#### 2. 行事関係審議事項（齋藤）

##### 1) 学術大会実施要領

事務局および行事委員会が作成した実施要領を承認。

##### 2) 来年度の総会会場および総会時のイベント

公開講演会の講演者候補を部会に推薦してもらう。担当は行事委員長。

##### 3. 名誉会員推薦委員会

山本副会長を委員長とし，執行理事会として階層別委員4名（大学，小中高，官公庁，会社）を次のように推薦し，12月理事会で承認を得ることとした。

官公庁：栗本史雄（産総研）

小中高教員：会田信行（秀明大学校教師部）

会社：松浦一樹（ダイヤモンドコンサルタント）

大学：竹内 章（富山大）

##### ・職責委員（各支部長）7名

竹下 徹，土谷信高，有馬 眞，原山 智，宮田 隆夫，榎原正幸，佐野弘好

#### 4. 大学評価・学位授与機構より国立大学教育研究評価および機関別認証評価委員会の専門委員候補者の推薦依頼があった。推薦人数の指定なし，締切12/5。数名の候補者を挙げ，本人の確認を取って推薦することとした。

#### 5. GSAのAssociate Society (AS) について

GSAから送付された資料をもとに意見出しを行ったが，会長およびウォリス理事欠席のため継続審議。

#### 6. 12月理事会議案

・2015年度事業方針の骨子案

・中期ビジョン（内容についての報告と議論）

・地質学雑誌の電子化

・機関リポジトリへの対応，地質雑論文共著者の役割

明記について

・「県の石」選考方法（報告）

・125周年事業の内容

・国際地学オリンピック日本大会の支援について

・名誉会員の理事会推薦委員の選出

#### 7. 次期学習指導要領改訂に向けての対応（廣木・星）

小中高の理科教育において，地質学とそれに関連する内容について改善すべき点があればそれを文科省に対して要望すべく，現行学習指導要領を精査する。まずは次期指導要領改訂のスケジュールを調べる。廣木理事（地学教育担当）と星副常務を中心として，メンバー構成についても検討を始める。

### II 報告事項

#### 1. 全体的報告（メール審議確認）

・第23期学術会議の新会員，新連携会員が選出された。

・日本原子力学会より，同学会の「ATOMOΣ（アトモス），2015年3月号 特別企画」に，東日本大震災に対する取り組みおよび学会誌の紹介記事執筆の依頼があり，会長が寄稿した。

・日本地熱学会との共同声明“高温地熱の獲得を目指した陸上掘削の推進”について調整中。

#### 2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 公社) 日本アイソトープ協会より，第52回アイソトープ・放射線研究発表会の共催申し入れを承諾。運営委員として，小宮剛理事（本人承諾）を推薦。

2. 計測自動制御学会より，第40回リモートセンシングシンポジウム（2015/03/02，東京）の協賛申し入れを承諾。

3. 新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「新潟のジオパーク展—糸魚川と佐渡の魅力」（7/12-8/29後援）の開催報告があった。来場者964名，小中学生体験イベントを2回実施，71名の参加者。

4. 第56回藤原賞（藤原科学財団）の推薦依頼（1/31〆切，学会〆切1/9）→HP，geo-flash，Newsに掲載。

5. 応用地質学会より「第10回アジア地域応用地質学シンポジウム」の後援名義使用を承諾。HP，News誌，geo-flashに掲載。

<その他>

・東京大学大気海洋研究所共同利用募集（11/28〆切）→HP，geo-flash，Newsに掲載

<会員>

1. 今月の入会者（1名） 正会員（1名）：山縣耕太郎

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者 なし

4. 2014年10月末日会員数

賛助:27, 名誉:64, 正会員:3830, (正会員:3644, 院割会員:171, 学部割会員:15) 合計3921 (昨年比-76)

#### <会計>

- ・鹿児島市観光コンベンション協会から年会補助金として10万円入金.
- ・年会の収支については, 当初の見込みより赤字が少なくなる見込み, 巡検もわずかながら収支がプラスとなった.

#### 3. 広報部会: 広報委員会 (坂口・松田)

- ・ジオルジュ後期号を予定通り発行.
- ・英文ホームページの専門部会紹介文を各部会に依頼済み.

#### 4. 学術研究部会 (ウォリス・竹内・中澤)

- (1) 行事委員会 (竹内)
  - ・行事委員会報告
  - ・年会の開催要領を作成し, 行事委員会, 実行委員会, 事務局等での仕事の分担の共有化をはかることとし, 文案については議案とした.
  - ・JpGU2015年大会セッションの主催・共催を承認.
  - ・鹿児島大会の参加者834名.
- (2) 国際交流委員会 (ウォリス)
  - ・日本—モンゴルの学術交流協定を10月14日付で更新することとして, 現在両学会長のサイン交換手続き中.
  - ・日本—台湾の学術交流協定については, こちらから協定書案を送り, 10/29台湾の理事会で検討とのことであった. 台湾からの返答待ちの状況.

#### 5. 編集出版部会 (山路・海野・保柳)

- (1) 地質学雑誌編集委員会 (山路)
  - 1) 編集状況報告 (11月6日現在).
    - ・2014年投稿論文 総数60編 [総説4 (和文4)・論説31 (和文31)・ノート1 (和文1)・報告9 (和文7・英文2)・口絵7 (和文5・英文2)・巡検案内9]
    - ・査読中 21編 受理済み3編 (うち特集号3)
    - ・120巻10号: 特集「地層処分と地質科学その1 地質環境とバリア機能」(世話人 吉田英一ほか) (総説2, 論説1, 口絵1: 計53頁) 発行済み
    - ・120巻11号: 論説2, 報告1, 口絵1 (計43頁) 校正中
    - ・地質学雑誌の完全電子化について議論を開始する. 中期ビジョン検討委員会の検討状況を踏まえて進め方を考える.
  - 2) 長野大会巡検案内書編集状況報告  
小嶋 智巡検案内書編集委員長は, 11月4日付けで各案内者に原稿の執筆依頼を行った. 締め切りは, 2015年1月31日.
- (2) アイランドアーク編集委員会 (海野)
  - ・編集状況報告
- (3) 企画出版委員会 (保柳)
  - ・先に, 出版を断念する結論になった用語集の原稿 (選定された語彙) の扱いについての検討は, JIS, 標準

担当の中澤理事に委ねてはどうかとのこと.

#### 6. ジオパーク支援委員会 (平田)

- ・地震火山サマースクール3学会打合せの内容について報告. 実行体制等について, 引き続き3学会で検討を進める.

#### 7. 地学オリンピック支援委員会 (平田)

- ・国際地学オリンピック (2014スペイン) の報告をNews誌11号に掲載.
- ・12月理事会にて2016年開催の第10回国際地学オリンピック三重大会への支援を要請.

#### 8. 地質災害委員会 (斎藤)

- ・今年と昨年の年会で緊急展示された災害について, ニュース誌に報告が掲載される予定.

#### 9. 125周年事業について

緒方理事より, 事業資金計画, イベント等の検討状況について説明があった. 12月理事会で具体案が示される予定.

以上

2014年12月6日

一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長 (代表理事) 井龍康文  
署名人 執行理事 斎藤 眞